

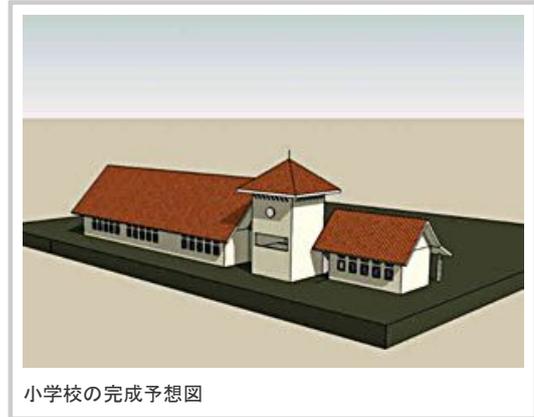
【NPO通信】

インドネシア教育振興会(5) 教育支援へ広がる輪

2010年5月4日

インドネシアの貧困、教育問題に取り組む「インドネシア教育振興会」は、富山大の学生サークルや、国際ボランティア貯金などの力を借りながら、現地での小学校建設や教育法人の設立を目指している。

インドネシアは赤道直下にあり、東南アジア諸国連合(ASEAN)全体の四割を占める約二億三千万人が住んでいます。エビやマグロなどの海産物、天然ガス、原油、石炭などのエネルギー資源を供給している大切な国の一つです。私たち富山県民が毎日使っている電気は、とりわけインドネシアからの石炭を使い発電しています。



小学校の完成予想図

このように、インドネシアは私たちの生活に密着した国ですが、貧困や教育問題など地球規模の問題も多く抱えています。インドネシア教育振興会は現地の子どもたちの劣悪な生活、教育環境をインターネットで広く発信しています。

教育問題は貧困に直結しています。国の財政難のため学校や教師が不足し、十分な教育を受けられないために単純労働にしか就けない、仕事がないなど、貧困地には住民の手ではなかなか解決できない問題があります。

当会は活動十年目のことし、国際ボランティア貯金から貧困地域への「小学校の建設及び教育法人の設立指導」に対する助成として、千六十六万三千円の配分決定を受け、活動しています。

活動の特徴は「箱もの」の建設だけでなく、運営に欠かせない現地の教育法人の設立を指導する点です。これにより、現地の遅れたカリキュラムや学校経営を、現地の住民自身が改善していく仕組みをつくります。

志の高い教員や大学新卒の教員を公募で採用し、従来の知識詰め込み型の教育から、問題解決・参加型の教育への転換を図ります。教育方法の改善には、インドネシア国立イスラム大学教育学部や富山大学人間発達科学部の先生方の協力も仰ぎます。

以上のような構想のプロジェクトですが、資金は十分とはいえません。これについて、国際交流に取り組む富山大の学生サークル“i. n. g”が「みどりの学校プロジェクト」という支援プロジェクトを立ち上げました。富山と関係の深い国の子どもたちの劣悪な生活、教育環境の現状を知り、立ち上がってくれたのです。

このような支援の機会をくださいました国際ボランティア貯金のお客さま、このプロジェクトにご賛同いただいている皆さまに感謝申し上げます。(インドネシア教育振興会代表・窪木靖信)

PR情報

企業のプロが疑問に答えるQ&Aサイト【お悩み相談室】→回答をみる
家計仕分けで保険見直し！35歳(男性)月額970円の死亡保険で家計改善